



Encore80号(2013年7月)に、「日本のファブレスは成功するか？(1)」と題する記事を掲載した。

### 1. ファブレス成功のための2ステップ

従来の例を見ると、ファブレスが成功するためには2つのステップが必要である。第1ステップは、ある特定のアプリケーションにおける有力なユーザーに向けて、優れたカスタムデバイスを開発・提供することである。この段階においては、日本でも、ゲーム機、液晶ディスプレイ、パチンコ等の分野で大いに成功しているケースを見ることができる。そのうえで事業規模を飛躍的に拡大するためには、第2ステップとして、より幅広い顧客をターゲットとした標準ロジックデバイス(ASSP)としてグローバルスタンダードな地位を築く必要がある。

### 2. ターゲット分野

スマートフォンならびにタブレットPCの成長は著しく、これらは従来日本が得意としてきた民生機器も取り込んで半導体産業の成長を牽引している。ただし、そこに使われる通信・信号処理分野のロジックデバイスは既にメーカー間の勢力図が固まってきており、新たに参入するのは得策とは言えないのではないだろうか。

一方例えば、自動車、ロボット、ヘルスケアのような日本が最先端を走っている分野は依然として大きなチャンスがあるのではないだろうか。

### 3. 今後の検討

このような領域において、日本のファブレスが成功のための第2ステップをクリアするためには、グローバルなマーケティング力と標準化によってグローバルスタンダードの地位を確立する必要がある。これを成し遂げるための具体策は過去の経験に学ぶしかない。スマートフォンの二の舞を演じてはならない。日本がかつては最先端であったがグローバルスタンダードの地位を得られなかった事例をスタディし、新たな成長市場で成功するための施策を見出す必要があると思われ、今後その方向で検討をすすめていく予定である。

本テーマに関するご意見を論説委員会  
[ronsetsu@ssis.or.jp](mailto:ronsetsu@ssis.or.jp)までお寄せください

論説委員:井入正博(委員長)、市山壽雄、釜原紘一、川端章夫、伏木 薫、溝上祐夫(アドバイザー)、和田俊男(アドバイザー)

### ECのプレスリリース

EC(European Commission)が、半導体を中心とするMicro- & Nano- Electronicsの共同研究開発に、2013年から2020年の7年間に50億ユーロ(約6,500億円)の公的資金を投入するとのプレスリリースを5月23日に行った。この背景を当協会会員であるMalcolm Penn氏から聞く機会を得た。

研究対象はリソグラフィ、デバイス物理、新材料、新構造、450nmを主とし、外国企業も参加できる。

50億ユーロの公的資金投資の結果として、1,000億ユーロ(約13兆円)の民間投資を引出し、欧州での半導体生産の世界シェアを現状の約3倍の20%にする目標を掲げている。背景には米国やアジアへの対抗がある。EUは米国とほぼ同等のGDPを有するので、米国並みのシェア20%を目指すとしている。

ECは半導体技術開発への公的投資の有効性を、雇用、他産業への影響、EUの経済成長の観点から強く認知している。半導体産業の年平均成長率が5%を継続することを、また半導体産業による域内の直接的な雇用が現状の20万人から45万人へ増加することを見込んでいる。

欧州には多くのファブレスがあり次世代半導体の開発が活発に行われているが、現状は製造の多くを台湾のファンドリーに依存し、今後ますますファンドリーがボトルネックになるとの見通しから脱却するため、域内に最先端のファンドリーを誘致したいとの強い思いがある。その対象を欧州国籍の企業に限定せず、外国企業の投資を歓迎するとしている。

退潮傾向にある欧州半導体産業(特に製造分野)がこの政策により狙い通りの成果を出すか、今後大いに注目される。